

第 3 章

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見る実践例

第3章では、練馬区内の幼稚園、保育所、小学校の実践例をまとめました。

子どもたちの遊びや活動の様子、環境構成の工夫を写真で紹介し、遊びや学習活動から読み取れる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記載しています。

教員・保育士と子どもとの関わりや環境の構成の工夫、架け橋期の指導・援助のポイント等、それぞれの幼稚園・保育所・小学校の教育活動の実情に合わせて、ご活用ください。

「幼児期の終わりまでに育って ほしい姿」から見る実践例

5歳児			
進級の喜びを感じ力を発揮しようとする時期	自身の力を発揮し互いのよさを受け入れ合う時期	友達と力を合わせて生活や遊びを進めていく時期	自身の成長を感じ就学への期待をもつ時期
4~5月	6~9月	10~12月	1~3月

【自分たちのこいのぼりがつくりたい!】 P16

【お米をつくってみよう】 P18

【こどもかい】 P23

【みんなの運動会】 P21

【美容室ごっこ】 P19

【氷をつくろう!】 P22

【本物みたいにしようよ】 P20

【遊園地ごっこ】 P17

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

- 健康な心と体
- 自立心
- 協同性
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 社会生活との関わり
- 思考力の芽生え
- 自然との関わり・生命尊重
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
- 言葉による伝え合い
- 豊かな感性と表現

小学校1年生		
新しい場所での生活に不安と期待をもって新しい生活をスタートする時期	経験や体験をもとに、より主体的・自覚的な学びに向かう時期	
4~5月上旬	~7月	~3月

【わくわくどきどきしょうがっこう】 P24

【なかよくなるうね 小さなともだち】 P26

【きせつと なかよし はる なつ あき ふゆ】 P25

【給食は自分たちで】 P27

自分たちのこいのぼりがつくりたい！

【遊びから学びが広がる様子】

昨年、年長クラスの幼児たちがこいのぼりを揚げているのを見ていて、今年は自分たちがこいのぼりを揚げることができると、楽しみにしていた。こいのぼりを揚げる役割を任せられる中で、「自分たちのこいのぼりがつくりたい！」という声が上がリ、こいのぼり制作につながった。グループごとに意見を出し合い、工夫して制作し、こいのぼりができ上がった。

言葉による伝え合い

自分たちがこいのぼりを揚げる喜びや感動への共感



うろこは何を使ってつくる？



自立心

やったー！
あがった。

必要な材料や素材を
選べるような環境の設定

豊かな感性と表現

A児：どうやって貼ろう？
B児：ちょっと伸ばすと
上手く付くよ。

協同性



友達が休みでも、できる
ところは一人でやるう。

思考力の芽生え

足りないから
もう少しつくるう。

数量や図形、標識や 文字などへの関心・感覚

みんなに見せたい！
じゃ、廊下がいいね。

充実感や満足感を味わえる
ような展示の環境



架け橋期の援助のポイント

- 園庭にこいのぼりを揚げる時に、実際に触れたり、昨年の年長児の制作を思い出したりしながら、自分の考えを出し合い、友達同士で共通のイメージをもって制作に取り組めるようにする。
- 制作に必要な様々な種類の素材や材料、道具などを用意し、使いやすい場所に設定することで、幼児たちが、自由に触ったり試したりしながら、自分たちで考え、選べるようにする。
- 予め完成日を決めておき、見通しをもって主体的に制作が進められるようにする。
- 幼児の思いを実現できるようにし、活動に満足感や達成感をもって、次への意欲につながるようにする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 協同性
友達と共通のイメージをもって、考えたり、工夫したり、協力したりして取り組み、やり遂げたことに対する充実感・達成感を味わう。
- 豊かな感性と表現
様々な素材を使い、考えたことや感じたことを自分なりに表現したり、友達と共に表現したりする過程を楽しむ。

遊園地ごっこ

【遊びから学びが広がる様子】

近所にできた遊園地への興味が幼児たちの中で高まっていた。「行ったことあるよ」、「ポテトを売っているよ」という声から、紙で食べ物をつくり、レストランごっこが始まった。「乗り物もつくってみたい」という幼児たちは、保育者と相談しながら、段ボールの船、平テープの雨のカーテンやチケットカウンター、看板などをつくった。遊園地ごっこでは、案内係、船を動かす人、お客さんなどの役割を交代しながら楽しんだ。「もっとお客さんに来てほしい」という思いがわき、年少クラスの幼児を招待して、楽しませることに嬉しさを感じていた。

ここがグラグラだから一緒に直そうか。



乗り物



豊かな感性と表現

雨の下をくぐりますよ！

1500円です。お釣りをどうぞ。



チケット売場

出発します。おつかまりください！

幼児の伝え合いやイメージの共有を促す保育者の関わり

協同性



遊園地にご招待

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

他クラスの幼児を招待するなど、遊びが深まるための園内の連携

A児：先生も乗ってください！
B児：重たいからみんなで押すよ！
C児：そっちから引っ張ってみて。
D児：せーの！

架け橋期の援助のポイント

- 保育者も仲間になって一緒に楽しんだり、他クラスを招待する機会を設けたりすることで、イメージや目的を共有し、必要感をもって役割分担をしたり、役になりきる経験を重ねられるようにする。
- イメージを実現できるように、段ボールや支柱など様々な素材を用意する。チケットづくりなどを通して、数字や文字などに関心をもてるように、保育者が見本を示したり、幼児同士の教え合いを促したりする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 豊かな感性と表現
自分の生活の中で経験したできごとを遊びで表現し、楽しさを共有しようとする。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
遊びの中で「□□円です」、「△△分待ちです」など生活に即した数字や文字などを扱う。
- 協同性
共通のイメージから役割を考えて分担する中で、得意なことを発揮し合う。

お米をつくってみよう

【遊びから学びが広がる様子】

先生から聞いた田んぼの話に興味をもち、6月に植えた苗の世話を友達と協力して行ってきた。稲が育ち、以前につくったおにぎりのごはんの匂いや重みを思い出しながら、脱穀、精米を行うと、お米の数を数えたり、色や形を比べたり、匂いを嗅いだり、色々な感覚を使って関わっていた。幼児は、自分が試したこと、発見したことや感じたことを言葉で表現したり、友達と共有しながら共感をしていた。

自然との関わり・ 生命尊重

水の中の土にそっと
入れるんだね。

じっくりと関わり、発見や感動を
味わえる時間と場の保障



お米はやわらかいかな？
かたいかな？

社会生活との関わり



お米

何色？



1,2,3...

色々な形が
あるね。



皮がなかなか
むけなくて
むずかしい...

言葉による伝え合い



お米のにおい、
いいにおい。

数量や図形、標識や 文字などへの関心・感覚

個々の気づきを受け止め、
共有できるような橋渡し

架け橋期の援助のポイント

- 身近な植物を育てる中で気付いたことを言葉にして伝える姿を認め、今後の生長に期待をもてるようにする。
- 育て、収穫し、米になるまでの過程で、自分なりに考えたり、工夫したりできるようにじっくりと関わる時間と場を保障する。
- 興味をもったことを自分たちで調べられるように絵本や図鑑などの環境を用意する。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 自然との関わり・生命尊重
動植物との関わりを積み重ねる中で、大切にしている気持ちをもつ。
- 言葉による伝え合い
友達に自分が出会った面白さや発見を言葉で伝えたり、友達の話や思いを聞いたり、伝え合いを楽しんだりする。
- 社会生活との関わり
相手のことを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、社会とのつながりを意識するようになる。

美容室ごっこ

【遊びから学びが広がる様子】

小型のトングを手に持ち、友達の髪をカットするまねをするA児。トングの先にB児の髪の毛を挟み、A児「ハサミの音に似ているね」、B児「本物みたい」。ここから美容室ごっこが始まった。「化粧（メイク道具）もつくろう」、「鏡が欲しい」、「爪にもつけよう（ネイル）」などと言い、次々と美容室に必要な物を考えてつくってくる。看板もつくり、入り口のドアに設置。お客さん役の人が来ると美容師役の幼児がシャンプーやカット、メイクをして楽しんだ。

言葉による伝え合い

協同性

豊かな感性と表現

ドライヤー

メイク道具

思考力の芽生え

社会生活との関わり

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

イメージを広げたり深めたりする提案や材料・道具の設定

看板

架け橋期の援助のポイント

- 幼児がイメージを実現できるように、空き箱などの素材や道具を自由に選べるように配置する。
- 遊びが広がるように、幼児同士でアイデアを伝え合う姿を認める言葉かけをしたり、会話の橋渡し役をしたりする。
- 幼児同士の言葉でのやりとりを見守り、幼児が主体的に遊びを進められるようにする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 言葉による伝え合い
相手の考えを受け取りながら、自分の考えを伝える。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
絵や図、言葉や文字で自分の思いや感じたことを表現する。
- 思考力の芽生え
友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりする。

本物みたいにしようよ

【遊びから学びが広がる様子】

ホールの積木で遊び場をつくっていた幼児たち。他の幼児が宝づくりのために使っていたホイル折り紙を丸めて「薬ってことね」と言っている。保育者が「これじゃ大きくて喉に詰まっちゃいそう」と言いながら小さく折りたたんで見せると、「これはお腹が痛いときに飲む薬なの」となどと会話を楽しみながら丁寧に作り直していった。「薬を入れる袋があるといいね」と保育者がチャック付きポリ袋とラベルシールを用意すると「本物みたい!」と喜び、色ごとに分類したり、「これは何の薬ってことにする?」と話したりしながら、薬をつくったり、ラベルの文字を書いたりすることを楽しんだ。

言葉による伝え合い



「な」って
どうやって
書くんだったけ?

イメージを実現する
喜びを味わえる素材



数量や図形、標識や
文字などへの関心・感覚

豊かな感性と表現



薬袋

社会生活との関わり

こっちが病院ってことね。
待ってる場所があるよ。

協同性



救急車

診察台

待合室

イメージを共有し、やりとりしながら遊びがさらに楽しくなるような環境

架け橋期の援助のポイント

- それぞれの幼児のイメージや思いを受け止めながら、「もっとこうしたい」という目的に向かって工夫する楽しさを味わえるように、材料や方法を選べる提示をする。
- より本物らしくしようと思いをめぐらせる中で、必要に応じて文字や数量、図形などを扱えるような環境を用意する。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 豊かな感性と表現
様々な素材に触れ工夫して扱いながら、自分のイメージを実現する楽しさを味わう。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
文字や色、形などに関心を持ち、自分なりに扱おうとする。
- 協同性
友達と遊びを進めていく中で、イメージが共通になっていく楽しさを感じる。

みんなの運動会

【遊びから学びが広がる様子】

「踊りの曲と振付」、「リレーの順番や作戦」を自分たちで考える秋の運動会。昨年の年長クラスを見て憧れていた活動に期待感が膨らむ一方、「難しそう」、「できるかな」と話す幼児もいる。段階を追って経験を積み重ねることで楽しさを味わい、友達や保育者と「ドキドキするね」と共感することで緊張感がほぐれていった。また「年少クラスの応援や合同の活動」、「競技紹介の言葉」など、運動面以外の活動にも取り組んだ。

言葉による伝え合い

協同性

運動会

健康な心と体

道徳性・規範意識の芽生え

踊りやリレーの話し合い



自立心

年少クラスの応援・合同の活動

自分たちなりに見通しをもって取り組めるような環境



司会の練習

架け橋期の援助のポイント

- 普段の遊びの中で、ポンポンを持って好きな曲で踊ったり、戸外遊びの一つとしてリレーを取り入れるなど環境を設定する。運動会後も取組を継続し、それぞれの達成感につながるようにする。
- リレーの順番は、付けはずし可能なボードを用いて、自分たちで意見を出し合って相談しながら進められる環境を整える。幼児の出した意見に共感したり保育者が仲立ちしたりすることで、互いの思いや考えを生かすよさに気付けるようにする。
- 年少クラスのために応援グッズをつくったり、当日の役割のための工夫をしたり、試してみたりする中で、責任感・達成感をもち、自信や次の活動への意欲につながるようにする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 健康な心と体
踊ったり走ったりすることを楽しみながら全力で運動やそのための練習を工夫する中で、喜び、くやしさを、一体感など充実した経験をする。
- 道徳性・規範意識の芽生え
競争心の芽生えとともに、健全な社会生活の基礎となる相手を思いやり尊重する道徳観、ルールやマナーを守る規範意識、得意・不得意を補い合い助け合う社会性をもつ。
- 自立心
年少クラスの幼児を応援したり一緒に活動したりすることで、年長児としての自覚が育まれるとともにまた自分たちの力でやりとげる達成感が、自立心につながっていく。

氷をつくらう！

【遊びから学びが広がる様子】

1月下旬、寒い日が続く園庭の池に氷が張った。朝「氷ができてるよ！」という幼児の声に他の幼児たちが集まって来た。「こっちの池の方が薄い氷だ。何でだろう？」とつぶやく幼児もいる。年長クラスの幼児たちは、昨年度の年長クラスの様子を思い出し、様々な容器に水とハーブの葉っぱや実などを入れて氷づくりを始めた。「氷ができる場所はどこかな?」、「寒いところがいいんだよね」と置き場所も自分たちで考えていた。年長クラスの幼児がやっていることを年少クラスの幼児が関心をもって見ていた。

池に氷が
できてるよ！



自然との関わり・
生命尊重

どこに置いたら
氷ができるかな。



思考力の芽生え

看板をつけておこう！

自分なりにじっくりと
試せる場と時間、材料



私はこの葉っぱを
入れてみる！

言葉による伝え合い



きれいだね。
冷たい～！

感じたことや考えたことを受け止め
合える関係をつくるための橋渡し

架け橋期の援助のポイント

- 幼児が自分で選んだり、繰り返し試したりできるように、様々な素材や大きさ、形状の異なる容器を毎日同じ場所に設定し、じっくりと関わる時間を保障する。
- 幼児が感じたり気付いたりしたことを言葉で表現する姿を受け止め、共感する。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 自然との関わり・生命尊重
自然現象の不思議さや美しさを感じる。
- 思考力の芽生え
「どうしてかな」と考えたり、「こうしたらどうなるかな」と試したりする。
- 言葉による伝え合い
自分の考えたことを相手に伝えたり、相手の言葉や動きから思いを受け止めたりする。

こどもかい

【遊びから学びが広がる様子】

表現的な活動を発表する「こどもかい」に向けて、クラスでストーリーを考え、劇をつくっていった。役ごとの4～6人のグループでイメージを出し合い、保育者が援助をしながら、セリフや動き、身に着けるものなど劇に必要な物を考えた。それぞれのグループの取組がつながり、オリジナルの劇になった。

A児：忍者が出てくるのはどう？
B児：いいね。

ストーリーやセリフを考える



言葉による伝え合い

思考力の芽生え

劇の背景や身に着けるものなど必要なものを考えてくれるような環境

A児：大きな木ができたね。
B児：葉っぱらしくいっぱい描こう。

必要な物をつくる



協同性

A児：こんな動きがいいよ！
B児：忍法、消えるの術！

みんなで動き方を考える



A児：宝の鍵をどうぞ。
B児：ありがとう。

豊かな感性と表現

それぞれのイメージが活かされ、つながりを感じられるような援助



みんなで一つの劇をつくり上げる

架け橋期の援助のポイント

- 幼児の話し合いを見守りながら、必要に応じて言葉を補足したり、分かりやすい表現にしたりしながら、互いの思いやイメージがつながり実現する楽しさを味わえるようにする。
- 幼児のアイデアを取り入れながら、今までの遊びの経験を生かして取り組める方法や材料、用具などを提案して、幼児が主体的に進めていけるようにする。
- 各グループ活動の様子を伝え合う機会をつくり、互いのよさに気付いたり、刺激を受けたりしながら、みんなで一つのものをつくり上げるよさに気付けるようにする。

小学校につながる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」

- 協同性
クラスやグループの友達と共通の目的に向かって力を発揮する喜びを味わう。
- 言葉による伝え合い
考えたことを相手に分かるように話したり、相手の話を聞いて理解したり、取り入れたりする。
- 豊かな感性と表現力
役に合った話し方や動き方を工夫する。必要なものを身近な材料や用具を使ってつくる。

わくわくどきどき しょうがっこう（学校探検）

【活動のめあて】

- 学校の様子を知り、学校を支えている人と関わる活動を通して、楽しく安心して学校生活を送ることができるようにする。

【活動内容】

- はじめはクラス全員で校内巡りをしたり、行きたい場所に小グループで探検活動したりする。
- 探検を通して気付いたことや知りたいことを教職員や上級生に質問する。
- 見付けたことや気付いたことを楽しく伝え合う。



校長先生、こんにちは。
教えてください。

社会生活との関わり

ここは何の部屋かな。

協同性



みなさん
聞いてください。

言葉による伝え合い

架け橋期の指導のポイント

- やりたいことを見付ける、その実現のために人と関わるなど、児童が入学前に経験したことを引き出し、学校探検やそれを簡単に発表する様々な活動につなげ、意欲的に学習できるようにする。
- 児童の思いや願いを大切に、活動（学校探検、発表等）を繰り返し行う機会を設けることで、学校生活への関心や理解、安心感を高めるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見える小学校での学習

- 社会生活との関わり
身近な人と触れ合い、人との様々な関わり方に気付き、学校に親しみをもつとともに校内を知ること、学校生活に必要な情報を取り入れ、学校を大切にする。
- 協同性
友達と思いや考えを共有し、共通の目的に向かって考えたり協力したりして、充実感をもってやり遂げる。
- 言葉による伝え合い
教職員や友達と関わる中で、豊かな言葉や表現を身に付け、言葉で伝える。話を聞いて言葉による伝え合いを楽しむことができる。

きせつと なかよし はる なつ あき ふゆ

【活動のめあて】

- それぞれの季節の自然を見つけたり、遊んだりする活動を通して、季節の違いや特徴を見つけ、季節の変化やそれらを利用した遊びの面白さに気付くことができるようにする。
- 季節の変化の気付きを自分の生活に取り入れ、暮らしを楽しく充実したものにできるようにする。

【活動内容】

- 季節の特徴をとらえ、その季節ならではの遊びを楽しむ。
 「春・夏」：花、虫、植物の様子 「夏」：水遊び、天気の特徴
 「秋」：植物の様子、木の実、落ち葉、季節の物を使ったおもちゃづくり
 「冬」：冬見付け、生きものの冬の過ごし方、北風、雪、氷で遊ぼう



自然との関わり・生命尊重

大きくてまんまるがつくれたよ。



この前より葉っぱの数が3枚も増えたよ。

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚



言葉による伝え合い

こうやると、しゃぼん玉の赤ちゃんが生まれるんだよ。



架け橋期の指導のポイント

- 幼児期の経験や体験をもとに、比べたり、たとえたり、試したり、見通したりしながら、新たな遊びや活動につなげ、自分の生活に生かせるようにする。
- 身近な自然で繰り返し遊んだり、観察したりする活動を通し、それらの変化や特徴についての児童の気付きを生かす。
- 活動中の材料や活動の工夫、友達と協力したことなど、児童に気付かせたい点に沿って助言したり、称賛したりして、児童自身や友達のよさに気付くことができるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見える小学校での学習

- 自然との関わり・生命尊重
 身近な自然に触れ、その変化や特徴に気付き、問いを抱き、答えを知りたいと思う経験を積む。
- 言葉による伝え合い
 栽培活動や季節に関する活動で気付いたことを、伝えたり、記録したり、聞いたりする。
- 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
 観察や体験を通し、それらを伝えたり記録したりする際、数量や図形、文字を活用し、分かりやすく伝えようとする。

小学校1年生 5月～（2年生以降も継続）

なかよくなろうね 小さなともだち

【活動のめあて】

- 学校で見つけた生き物たちを思い出し、身の回りには様々な生き物がいることに気付き、飼育への関心をもつことができるようにする。
- 動物を飼う活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができるようにする。
- 動物や虫などが生命をもっていることや成長していることに気付くと共に、生き物への親しみをもち、大切にしようという思いを表現したり、友達と伝え合ったりすることができるようにする。

【活動内容】

- 学校探検や公園で見つけた生き物を、自分たちで世話したり、飼うことができるか調べたり、聞いたり、準備したりして育てる。

写真にとって、みんなに教えよう！



社会生活との関わり



自然との関わり・生命尊重



豊かな感性と表現

この子、とってもあたたかくて、ドキドキしてる。



トンボがとんで来たよ。秋だね。

架け橋期の指導のポイント

- 幼児期からの飼育経験や生き物への興味や関心を生かして、親しみをもち、責任をもって世話をしていくことを通して、動物や植物にも命があり、自分と同じように生きていることが分かり、命を大切にすることができるようにする。
- 幼児期の経験をもとに、生き物と触れ合うときに気を付けること（前後の手洗い、児童のアレルギー、安全管理、感染症予防など）を話し合い、安全に活動できるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見える小学校での学習

- 自然との関わり・生命尊重
動物や身近な生き物の世話をすることを通して、それらの生活環境に興味や関心をもち、心を寄せ、よりよい成長を願って関わり合う。
- 豊かな感性と表現
児童の心が揺さぶられる場面に多く出会うことで、対象の立場にたって思いや願いを膨らませる。
- 社会生活との関わり
動物などの飼育を通し、家族や専門家、詳しく知る人に質問したり、相談したりすることで得られた情報を活用しながら、活動を継続していく。

給食は自分たちで

【活動のめあて】

- 給食の準備から、片付けまでを協力して行う。
- 決められた時間内に自分の体に合った量の食事をする。
- 食事のマナーを知る。

【活動内容】

- 当番のやり方や給食のきまりを、給食班の仲間と確認し合ったり、助け合ったりしながら、当番活動を行う。
- 給食委員会の上級生の話や昼の放送から、栄養について知ったり献立の情報を聞いたりする。



気を付けて運ぼうね。
返すときもきちんと
整頓しよう。

健康な心と体

みんな同じ量にしよう。
お茶碗の位置は・・・。

言葉による伝え合い

協同性



自立心



当番表

架け橋期の指導のポイント

- 給食当番の仕方や役割など、視覚的に工夫した掲示をすることで、児童が主体的に活動できるようにする。
- 給食の楽しみや栄養の大切さについて、栄養士に話をしてもらい、給食への楽しみをもてるようにする。
- 当番活動を全員が経験するまで、校内の全職員が連携して、安全面や衛生面に留意しながら指導する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が見える小学校での学習

- 自立心
決められた時間内に、自分の体に合った量の食事をする。
- 協同性
準備から片付けまで、グループで協力して行う。
- 健康な心と体
早寝早起き朝ご飯の習慣を身に付け、好き嫌いせず、給食時間を楽しむ。